



宮司ぶしす 七十二歳

彦島八幡宮 宮司 ニュース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成二十四年五月二十九日

◇宮司の柴田です。 朝明けが早くなりまし

たし、日中は、汗ばむ陽気となりました。 今

朝（二十九日）は、午前四時半にお宮に出社

しまして、東西の回廊（かいろう）や社務所

の拭き掃除を終了後、午前五時過ぎより、拝

殿前の清掃と目立て作業をしました。 朝食

をはさんで、約二時間かかりましたが、まる

で、枯（か）れ山水（さんすい）のお庭のよ

うに様変（さまが）わりした光景を目にしま

すと、達成感に満たされますね。 神社神道

は、「外清浄（げししようじよう）」と「内清浄

（ないししようじよう）」が、大切です。 外

清浄は、昨日までの自分と現在の自分を清め

ます。 神社にお参りして、心を静かにして、

手水（てみず）にて、清める、これが外清浄

です。 その後、感謝を捧げて、未来を祈る、

これが、内清浄です。 参拝される方の外清

浄が、完璧になるために、私の心と体を清め

る、私にとつての外清浄こそが、日々の清掃

だと思っています。

◇天皇皇后両陛下の奉迎行事が、盛大に無事

に終了しました。 昨年の山口国体に引き続

いての、山口県への行幸啓（ぎきようこうけい）

でした。 下関の提灯行列の実行委員会の事

務局を仰せつかり、先日の二十六日（土）は、

亀山八幡宮において、奉迎の成功祈願祭と、

最終打ち合わせを行いました。 翌日の二十

七日（日）の提灯奉迎は、約四千人が参加され

たようです。 提灯は、LEDライトで、ス

イッチをオンすると点灯し、息を吹きかける

と、消灯します。 さらに、もう一度、息を

吹きかけると点灯するというハイテク提灯

でした。 終了後の反省会で、宮内庁総務課

長を通じて、「提灯がきれいで感動的でした。」

という天皇陛下の御感嘆（ごかんたん）が、

関係者へ伝聞（でんぶん）されました。 幾

度となく会議や打ち合わせをし、準備万端整

えてまいりましたが、その労苦（ろうく）が、

報われた瞬間で、目頭が熱くなりました。

また、両陛下が、提灯をお振りになる御答礼

（ごとうれい）が、殊（こと）の外（ほか）、

長かった事も併（あわ）せて伝えられますと、

万感胸に迫り、感動も新（あら）たなものと

なりました。 両陛下が、提灯をお振りにな

るたびに、浮かび上がる両陛下のお姿、ぼん

やりとしか見えませんが、言葉では言

い尽くせない、何とも言えない、心は、激し

く揺（ゆ）り動かされてはいますが、小波（さ

ざなみ）が、体の中に寄せては返す、その繰

り返しのような静かな感動でした。 二十八

日（月）には、グランドホテルから安徳天皇

御陵（あんとくてんのうごりよう）参拝に向

かわれる両陛下、さらに、御陵から海響館へ

御移動される両陛下を、奉迎させて頂きまし

た。 奉迎された皆さんが、異口同音（いく

どうおん）に、「天皇陛下は言うまでもない

が、皇后陛下には後光（ごこう）がさしてい

た。」と仰（おっしゃ）っていらつしやいま

したが、私も同感でした。 御通過になるそ

の数秒、周（まわ）りの雰囲気が一変（い

っぺん）するのですよ。 なんととも和（なご）

やかで温（ぬく）もりのある心地にさせられ

るのですね。

◇日本経済の長引く停滞（ていたい）、「失われ

れた二十年」といわれますが、その期間に、

何が本当に失われてしまったのでしょうか。

それは、「日本人としての誇り」ではなかつ

たかと思えます。 日本人としての誇りを取

り戻させてくれた、奉迎の二日間でした。

◇宮大工棟梁の西岡常一氏によると、千二

百年前に建った法隆寺の柱の表面をカンナ

で二、三ミリ削ると、檜(ひのき)特有の芳香(ほうこう)がするそうです。戦後の六十七年、失われた二十年が、その檜(ひのき)の表面であって、その中身が、日本人のDNA、「日本人の誇り」ではないでしょうか。

新潟県の中越地震の被災地で、背中を丸めて俯(うつむ)かれていたお婆(ばあ)さんが、お見舞いにお立ち寄られた両陛下のお姿を見られた途端に、背筋(せすじ)が、ピンと伸びられたそうです。日本人の心に安らぎと希望をお与えになられる天皇后両陛下、さらには、皇室の御存在こそが、我々日本人の精神の拠所(よりどころ)なのですね。常に、「国安(やす)けれ 民(たみ)安けれ」とお心を寄せ続け、祈り続けていらつしやる両陛下に、感謝の心を忘れてはなりません。「感謝の心を忘れない」、それこそが、神社神道、惟神(かむながら)の道(みち)なのですから。

◇イギリスのチャーチル首相は、「人は得る事で生計を立て、与える事で人生を築く」と仰(おっしゃ)いました。この奉迎の二日間の感激一入(かんげきひとしお)を生活の柱に、年中の祭典行事をとおして、「日本人の誇り」を多くの方々に取り戻して頂く努力を惜しまず、運命共同体としての地域社会が創りだせるよう、さらに邁進(まいしん)し

たいと思います。

◇五月の祭典行事報告

▼月次祭 *五月一日、十五日

▼衣更え *五月五日(立夏)

▼塩釜祭 *五月五日 ※左上の写真



▼福浦金刀比羅宮例祭 *五月十九日～二十日

※右中、右下、左上、左中の写真



▼朝粥会 *五月二十一日

▼海上自衛隊ミサイル艇、安全祈願祭参拝

※右下の写真

◇五月の宮司の行事会議等活動報告

▼奉賛会監査会、役員会

*五月二十五日

▼山口県神社庁、同下関支部関係

◇全国植樹祭天皇皇后両陛下奉迎実行委員会

*五月七日、十五日、二十五日、二十六日

◇天皇皇后両陛下奉迎行事

*五月二十七日～二十八日

▼西ロータリークラブ

◇例会 *五月二十三日、三十日

▼講演活動

◇下関商工会議所金融部会、*演題「彦島

八幡宮の歴史と文化」*五月十一日

◇山口県神社庁熊南神社総代会、*演題

「三感四恩」*五月二十一日

▼人権擁護委員活動

*なやみごと相談 *五月十日

▼教誨活動(美祿社会復帰促進センター)

*集合教誨(女子)

*五月十四日

*集合教誨(男子)

*五月二十八日

▼その他

◇皇学館大学保護者会役員会、総会

*五月十二日～十三日

◇下関彦島消防団彦島分団第六部部員歓送

迎会 *五月十四日

◇しおかぜの里保育園監査会

*五月二十二日

◇迫町自治会役員会 *五月二十三日

◇西山小学校歓送迎会 *五月二十五日